

令和2年度 第1回 札幌市地震被害想定検討委員会

日時：令和2年10月8日（木） 9時30分～11時30分

場所：TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前 はまなす

1 出席者（敬称略）

【委員】（○は委員長）

室蘭工業大学 大学院工学研究科	准教授	有村 幹治
北海道大学 大学院工学研究院	教授	石川 達也
北海学園大学 経済学部	准教授	大貝 健二
北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所	研究推進室長	大津 直
北海道大学 大学院工学研究院	特任教授	今 日出人
北海道大学 大学院理学研究院	教授	谷岡 勇市郎○

以上、6名出席

【事務局】

札幌市

危機管理対策室長	荻田 葉一
危機管理対策部長	永澤 美樹
計画・原子力災害対策担当課長	松坂 彰
防災計画担当係長	後藤 昌範
防災計画担当	佐孝 司、岩倉 徹、藤澤 秀行

【事務局補助】

（株）エイト日本技術開発

2 議事概要

(1) 議事説明

【事務局】

資料に沿って議事内容を説明

(2) 発言要旨

<検証について>

・ 地震動予測の検証

【委員】

震源モデルについては、昨年度の委員会での指摘を踏まえて検討した結果、伏在活断層の中でも月寒の傾斜や地震発生層の見直しなどを行っており、今回資料の条件で進めることでよいと考えられる。

- ・ **被害想定を検証**

- 【委員】

- これまでの委員会での意見の内容は、網羅されている。

- 【委員】

- 中央防災会議や北海道でも検討を進めており、建物被害想定では同じような見直しの方向である。今後も整合をとって進めることが望ましい。

- 【事務局】

- しっかり動向を把握して相違ないようにしていきたい。

- 【委員】

- 被害想定についても昨年度の委員会での指摘を踏まえた方向で検討いただいているので、具体的に進めていただくことでよい。コロナ禍の中、検討条件をどうするか難しいが次回以降で状況も見つつ議論していきたい。

- 【委員】

- 地震の被害想定において考慮すべき点と、地震の被害想定を用いた個別計画で検討すべきものがある。

- 地震被害想定において、どこまで考慮するか、今後、検討していきたい。

<見直し結果について>

- ・ **地震動予測結果（案）**

- 【委員】

- 震源モデルの設定について、レシピに沿って行ってもアスペリティの数は悩ましく、1個と2個の両方で考えた点は現在の知見に沿ったということではよいと思われる。

- 破壊開始点の考え方も、揺れが強くなる条件を踏まえたものであり、良い設定だと思う。

- 【委員】

- 地下水位については最高水位を用いることでよいが、水位の上昇傾向が確認されており、50cm～1m程度となる場所もあるとのことである。

- この状況を踏まえ、ボーリングデータの水位については、10年以上前の調査データもあることから、これらに対し補正を加えるような検討をすることが望ましい。

- 【事務局】

- 調査年による傾向を確認して検討する。

- 【委員】

- 道路橋示方書の計算式の改訂については、改訂式を用いる方針でよいと思われる。新旧の式による差異が、N値は20程度以上で出ていることを実際に確認するなど、細部の確認はしっかりお願いしたい。

- 【事務局】

- 震度分布、液状化危険度分布とも、細部を精査した上で、次回の委員会でお示ししたい。